

RYOBI

Environmental Annual Report 2007

リョービグループ 環境報告書 2007





■ 真に豊かな社会の実現をめざして

当社グループは「技術と信頼と挑戦で、健全で活力にみちた企業を築く。」を企業理念に、ダイカスト、印刷機器、パワーツール、建築用品の4つの事業を展開しています。人々の暮らしの中にゆとりと豊かさを創造することを使命として、地球環境に優しい“モノづくり”に取り組んでいます。

ダイカスト事業においては、アルミニウムダイカストが軽量かつ耐久性に富み、リサイクル性に優れていることから、環境保全に有効な技術としてあらゆる分野から注目されています。また、印刷機器、パワーツール、建築用品の各事業においても、環境に配慮した商品の開発はもとより、生産・販売からお客様がお使いいただくまで、様々なプロセスで環境保全に取り組んでいます。

事業活動を通じて発生する環境負荷を低減し、環境を保護することは、重要な経営課題のひとつとして捉え、グループが一体となって推進しています。

また、環境省が進める「チーム・マイナス6%」にも参加し、ライトダウンキャンペーンやブラックイルミネーションの実施、クールビズの促進などを行っています。

当社グループは環境保全、資源保護、省エネルギーならびに社会貢献活動を通じて、真に豊かな社会の実現をめざしています。また、企業情報の開示、コンプライアンス、リスク管理、内部統制などCSRの充実をはかり、社会の信頼に応えてまいります。

本報告書には、このような活動の一端を掲載しましたので、ご覧ください。

2007年9月

リョービ株式会社

代表取締役会長

(リョービ環境保全委員会 統括委員長)

浦上 浩

CONTENTS

本報告書の対象期間 2006年4月～2007年3月(2006年度)

本報告書の対象範囲 リョービ株式会社
 リョービマジクス株式会社・リョービ販売株式会社・リョービミラサカ株式会社
 リョービミツギ株式会社・株式会社東京軽合金製作所・生野株式会社
 リョービパワーツール株式会社・旭産業株式会社・リョービ開発株式会社
 リョービコンピュータービジネス株式会社

環境方針

リョービ環境方針	02
リョービ環境年表	02

環境マネジメント

環境管理組織(部会)と事業所(リョービ株式会社と国内グループ会社)	04
リョービ環境保全委員会の運営組織図(ISO 14001推進組織)	06

環境保全の取り組み

環境目的・目標	08
マテリアルバランス	09
環境パフォーマンスデータ	10
環境に関する法規制	12
環境監査	13

環境保全技術

ダイカストとは?	16
ダイカスト製品のライフサイクルアセスメント	17
自然にやさしい「植物系難燃性作動油」	17
鑄造工場のエアリーク対策による使用電力の削減	18
次世代油性離型剤と少量塗布技術による廃水および汚泥の削減	19
リョービの印刷機器と環境対応	20
環境に配慮した商品開発	22
環境に配慮した商品	23

社会貢献

2006年度 部会別社会貢献活動一覧	24
社会貢献活動の紹介	25
NPO法人 リョービ社会貢献基金の事業活動	25

社会性報告

コミュニケーションについて	26
コンプライアンス 一健全で活力にみちた企業を築くために	27

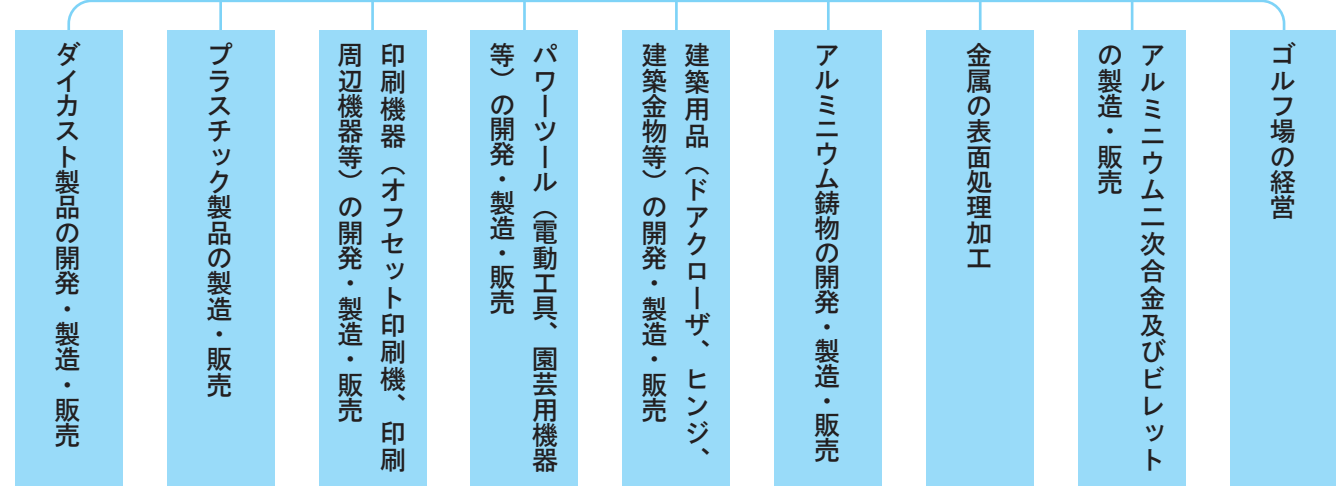
決算状況

連結業績	28
------	----

リョービ環境方針

リョービ※は、以下の事業を行う部門で構成される。

リョービ



※リョービとは、グループ会社を含めて次の事業所をいう。
 ・リョービ株式会社の本社、東京支社、大阪支店、名古屋営業所、広島工場、広島東工場、静岡工場、印刷機器工場、府中物流センター、御調第一物流センター、御調第二物流センター。
 ・リョービマジックス株式会社の本社、東京支店、名古屋支店、大阪支店。
 ・リョービ販売株式会社の本社、中部営業部、名古屋営業所、関東営業部、東京北営業所、関西営業部、高槻営業所。
 ・リョービミラサカ株式会社・リョービミツギ株式会社・株式会社東京軽合金製作所・生野株式会社
 ・リョービパワーツール株式会社・旭産業株式会社・リョービ開発株式会社の庄原カントリークラブ
 ・リョービコンピュータービジネス株式会社

リョービは、環境マネジメントシステムを構築し、事業活動、製品及びサービスによる環境への影響が大きい項目に関して、技術的及び経済的に可能な範囲で、目的・目標を設定、見直しを行い継続的な改善を図る。また、これらの活動を通じて経営計画の達成を図ると共に、社会の発展に貢献する。

- ISO 14001:2004規格要求事項に沿った規定を制定し、実行する。
- 環境関連の法律、規制、協定又は関連する組織が同意する環境関連要求事項を遵守し、環境汚染を予防する。
- 省エネルギー、廃棄物の減量化及び再資源化に取り組む。
- 緊急時に廃油、灯油、重油、廃液、薬品、化学物質等が環境に著しい影響を及ぼさないよう予防処置に努め、訓練を行う。
- 全構成員の環境に対する意識の向上を図るため、教育・啓蒙活動を行う。
- 環境保全活動を通じて、地域社会に貢献する。
- この環境方針は、全構成員に周知させるとともに、一般の人にも公開する。

リョービ環境年表

ISO 14001 認証取得活動



1997年8月 ISO 14001 認証取得に向けキックオフ



2006年9月 NPO法人が府中市社協より表彰

1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	
9 11 芦田川クリーン作戦開始(府中地区)以後継続 リョービ環境保全委員会設立	1 2 2 清掃運動開始(静岡工場)以後継続 独自の環境保全ポスター作成掲示以後継続 アルミ缶回収運動開始(府中地区)以後継続 古紙リサイクル運動開始(府中地区)以後継続	3 以後物品寄贈継続 会社および国道1号線バイパス周辺の 清掃運動開始(静岡工場)以後継続 独自の環境保全ポスター作成掲示以後継続 アルミ缶回収運動開始(府中地区)以後継続 古紙リサイクル運動開始(府中地区)以後継続	4 以後物品寄贈継続 アルミ缶回収で車椅子10台寄贈(府中地区) 5 (リョービ)ミラサカ、生野)以後継続 会社周辺のクリーン作戦開始 6 グリーンマークを小学校へ寄贈(府中地区) 7 グリーンマーク回収運動開始(府中地区) 8 アルミ缶回収で車椅子寄贈(生野)以後継続	3 会社周辺クリーン作戦(リョービミツギ)以後継続 4 通産省「環境に関するボランティアプラン」参加 5 チャリティーバザー開催(府中地区)以後継続 6 アルミ缶回収で健康増進器具寄贈(リョービミツギ)以後物品寄贈継続 7 静岡県道使用会議から表彰される(静岡工場)以後継続 8 県道クリーン作戦(リョービミラサカ)以後継続 9 府中市公衆衛生推進委員会連合会から表彰される(府中地区)	3 4 車椅子寄贈(リョービ)以後継続 5 府中市から表彰される(府中地区) 6 静岡県道使用会議から表彰される(静岡工場)以後継続 7 静岡県道使用会議から表彰される(静岡工場)以後継続 8 静岡県道使用会議から表彰される(静岡工場)以後継続 9 静岡県道使用会議から表彰される(静岡工場)以後継続 10 静岡県道使用会議から表彰される(静岡工場)以後継続 11 静岡県道使用会議から表彰される(静岡工場)以後継続 12 静岡県道使用会議から表彰される(静岡工場)以後継続	1 阪神大震災被災者へ義援金と救護物資を寄贈(静岡) 2 コーラス同好会が老人ホームをコーラス 3 慰問(静岡) 4 阪神大震災被災者へ義援金と救護物資を寄贈 5 第5回芦田川クリーン作戦(府中地区) 6 老人ホーム夏祭りへボランティアとして参加(府中地区)以後継続 7 車椅子寄贈(リョービ)以後継続 8 府中市から表彰される(府中地区)	1 環境配慮型商品「プロワバキウム」発売 2 社内報「RYOBI」にISO 14001 3 について掲載(6回連載) 4 ISO 14001 認証取得に向けキックオフ(グラフィックシステム本部) 5 ISO 14001 認証取得(グラフィックシステム本部) 6 地球環境に気を配っている企業ベスト50社に入る(第10回経企業イメージ調査) 7 省エネ機器「エネセイバー」発売 8 「地球環境に気を配っている企業ベスト50社」に入る(第10回経企業イメージ調査) 9 グラフィックシステム本部 ISO 14001 認証取得 10 省エネ機器「エネセイバー」発売 11 「地球環境に気を配っている企業ベスト50社」に入る(第10回経企業イメージ調査)	3 3 省エネルギー提案の募集・表彰、以後継続 4 広島県ボランティア交流会で事例発表(府中地区) 5 省エネルギー手作りポスター募集・表彰、以後継続 6 NHK主催のボランティアフォーラムにパネリストとして参加(府中地区) 7 第10回芦田川クリーン作戦(府中地区)	10 NHK主催のボランティアフォーラムにパネリストとして参加(府中地区) 11 第10回芦田川クリーン作戦(府中地区)	5 5 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 6 環境配慮型商品「焼却炉」発売 7 環境配慮型商品「圧縮減容梱包機」発売 8 小冊子「印刷機器事業の環境への取り組み」発行 9 環境対策エンジン搭載「刈払機」ウエルダ、カルチベータ、チェーンソー」発売 10 生野 ISO 14001 認証取得 11 リョービミツギ、リョービ開発 ISO 14001 認証取得 12 静岡工場、リョービミラサカ、リョービパワー ツール ISO 14001 認証取得 13 環境配慮型商品「デジタルオフセット印刷機」発売 14 本社 ISO 14001 認証取得 15 ダイオキシン対策型「焼却炉」発売	4 5 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 6 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 7 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 8 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 9 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 10 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 11 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 12 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 13 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 14 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 15 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売	1 1 7 環境配慮型商品「圧縮減容梱包機」発売 2 小冊子「印刷機器事業の環境への取り組み」発行 3 環境対策エンジン搭載「刈払機」ウエルダ、カルチベータ、チェーンソー」発売 4 生野 ISO 14001 認証取得 5 リョービミツギ、リョービ開発 ISO 14001 認証取得 6 静岡工場、リョービミラサカ、リョービパワー ツール ISO 14001 認証取得 7 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 8 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 9 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 10 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 11 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 12 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 13 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 14 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 15 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売	9 静岡工場コージェネレーション設備導入 10 環境配慮型商品「圧縮減容梱包機」発売 11 小冊子「印刷機器事業の環境への取り組み」発行 12 環境対策エンジン搭載「刈払機」ウエルダ、カルチベータ、チェーンソー」発売 13 生野 ISO 14001 認証取得 14 リョービミツギ、リョービ開発 ISO 14001 認証取得 15 静岡工場、リョービミラサカ、リョービパワー ツール ISO 14001 認証取得 16 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 17 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 18 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 19 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 20 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売	6 印刷機 RYOBI 784E/784EP」発売 7 ISO 14001 2004 移行審査受審 8 本社他全事業所で ISO 14001 再認証 9 静岡工場コージェネレーション設備導入 10 環境配慮型商品「圧縮減容梱包機」発売 11 小冊子「印刷機器事業の環境への取り組み」発行 12 環境対策エンジン搭載「刈払機」ウエルダ、カルチベータ、チェーンソー」発売 13 生野 ISO 14001 認証取得 14 リョービミツギ、リョービ開発 ISO 14001 認証取得 15 静岡工場、リョービミラサカ、リョービパワー ツール ISO 14001 認証取得 16 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 17 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 18 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 19 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売 20 環境配慮型商品「ゲイデンシユレッタ」発売	7 9 物品寄贈事業(11地区)以後継続(NPO法人)「チーム・マイナスイ」へ参加 8 新潟県中越地震の被災地や被災者へ義援金を寄贈(NPO法人) 9 「ブラックイルミネーション2007」へ参加 10 府中市社協より表彰(NPO法人) 11 府中ロータリークラブより表彰(NPO法人) 12 ボランティア6団体へ活動資金の助成以後継続(NPO法人)	3 7 府中市社協より表彰 4 創立60周年記念行事(クリーン作戦、植樹等)リョービグループ環境報告書2003発行以降継続 5 不要衣料品回収運動(府中地区) 6 アルミ缶回収1000万個達成(府中地区) 7 福山青年会議所からボランティア賞優秀賞(府中地区) 8 旧環境保全委員会から新生リョービ環境保全委員会へ移行 9 新潟県中越地震の被災地や被災者へ義援金とリョービ商品を寄贈 10 NPO法人設立記念事業 11 (11地区)社会福祉協議会へ物品寄贈 12 静岡県知事から河川・道路の清掃で褒賞を受ける(静岡工場) 13 NPO法人リョービ社会貢献基金設立 14 府中市社協より表彰	3 4 9 府中市社協より表彰(NPO法人) 5 府中ロータリークラブより表彰(NPO法人) 6 ボランティア6団体へ活動資金の助成以後継続(NPO法人) 7 物品寄贈事業(11地区)以後継続(NPO法人)「チーム・マイナスイ」へ参加 8 新潟県中越地震の被災地や被災者へ義援金を寄贈(NPO法人) 9 「ブラックイルミネーション2007」へ参加 10 府中市社協より表彰(NPO法人) 11 府中ロータリークラブより表彰(NPO法人) 12 ボランティア6団体へ活動資金の助成以後継続(NPO法人)	6 7 新潟県中越地震の被災地や被災者へ義援金を寄贈(NPO法人) 8 「ブラックイルミネーション2007」へ参加 9 府中市社協より表彰(NPO法人) 10 府中ロータリークラブより表彰(NPO法人) 11 ボランティア6団体へ活動資金の助成以後継続(NPO法人)

リョービ環境保全委員会の活動

環境管理組織（部会）と事業所（リョービ株式会社と国内グループ会社）



リョービ株式会社 本社

本社部門部会

リョービ株式会社 本社
〒726-8628 広島県府中市目崎町762

旭産業株式会社
〒726-0033 広島県府中市目崎町762

保険代理業

リョービコンピュータービジネス株式会社
〒726-0033 広島県府中市目崎町762

情報処理サービス



リョービ株式会社 本社・広島工場

ダイカスト本部広島部会

リョービ株式会社 本社・広島工場
〒726-8628 広島県府中市目崎町762

リョービ株式会社 広島東工場
〒726-0002 広島県府中市鶴飼町800-2

リョービ株式会社 府中物流センター
〒729-3212 広島県府中市阿字町松原1647



リョービ株式会社 広島東工場

グラフィックシステム本部部会

リョービ株式会社 広島東工場
〒726-0002 広島県府中市鶴飼町800-2

リョービ株式会社 印刷機器工場
〒726-0023 広島県府中市栗柄町444-1

住建機器本部部会

リョービ株式会社 本社
〒726-8628 広島県府中市目崎町762

建築用品部会

リョービ株式会社 本社
〒726-8628 広島県府中市目崎町762
リョービ株式会社 御調第一物流センター
〒722-0312 広島県尾道市御調町大字貝ヶ原694-1



リョービミラサカ部会

リョービミラサカ株式会社
〒729-4307 広島県三次市三良坂町皆瀬75

ダイカスト製品の製造



リョービミツギ部会

リョービミツギ株式会社
〒722-0353 広島県尾道市御調町高尾200

ダイカスト製品の製造

リョービ株式会社 御調第二物流センター
〒722-0353 広島県尾道市御調町高尾200



リョービパワーツール部会

リョービパワーツール株式会社
〒722-1112 広島県世羅郡世羅町大字本郷52

電動工具、園芸用機器等の製造



リョービ開発部会（庄原カントリークラブ）

リョービ開発株式会社
〒727-0014 広島県庄原市板橋町600

ゴルフ場の経営



生野部会

生野株式会社
〒679-3311 兵庫県朝来市生野町真弓580

アルミニウム二次合金地金の製造販売



大阪部会

リョービ株式会社 大阪支店
〒569-1135 大阪府高槻市今城町24-12

リョービマジクス株式会社 大阪支店
〒569-1135 大阪府高槻市今城町24-12

印刷機器および関連商品の販売

リョービ販売株式会社 関西営業部・高槻営業所
〒569-1135 大阪府高槻市今城町24-12

電動工具、園芸用機器等の販売



名古屋部会

リョービ株式会社 名古屋営業所
〒468-0034 愛知県名古屋市天白区久方1-145-1

リョービマジクス株式会社 名古屋支店
〒468-0034 愛知県名古屋市天白区久方1-145-1

印刷機器および関連商品の販売

リョービ販売株式会社 本社・中部営業部・名古屋営業所
〒468-8512 愛知県名古屋市天白区久方1-145-1

電動工具、園芸用機器等の販売



東京部会

リョービ株式会社 東京支社
〒114-8518 東京都北区豊島5-2-8

リョービマジクス株式会社 本社・東京支店
〒114-0003 東京都北区豊島5-2-8

印刷機器および関連商品の販売

リョービ販売株式会社 関東営業部・東京北営業所
〒114-0003 東京都北区豊島5-2-8

電動工具、園芸用機器等の販売



東京軽合金製作所部会

株式会社東京軽合金製作所
〒361-8510 埼玉県行田市富士見町1-21-1

アルミニウム鋳物、ダイカスト製品の製造販売



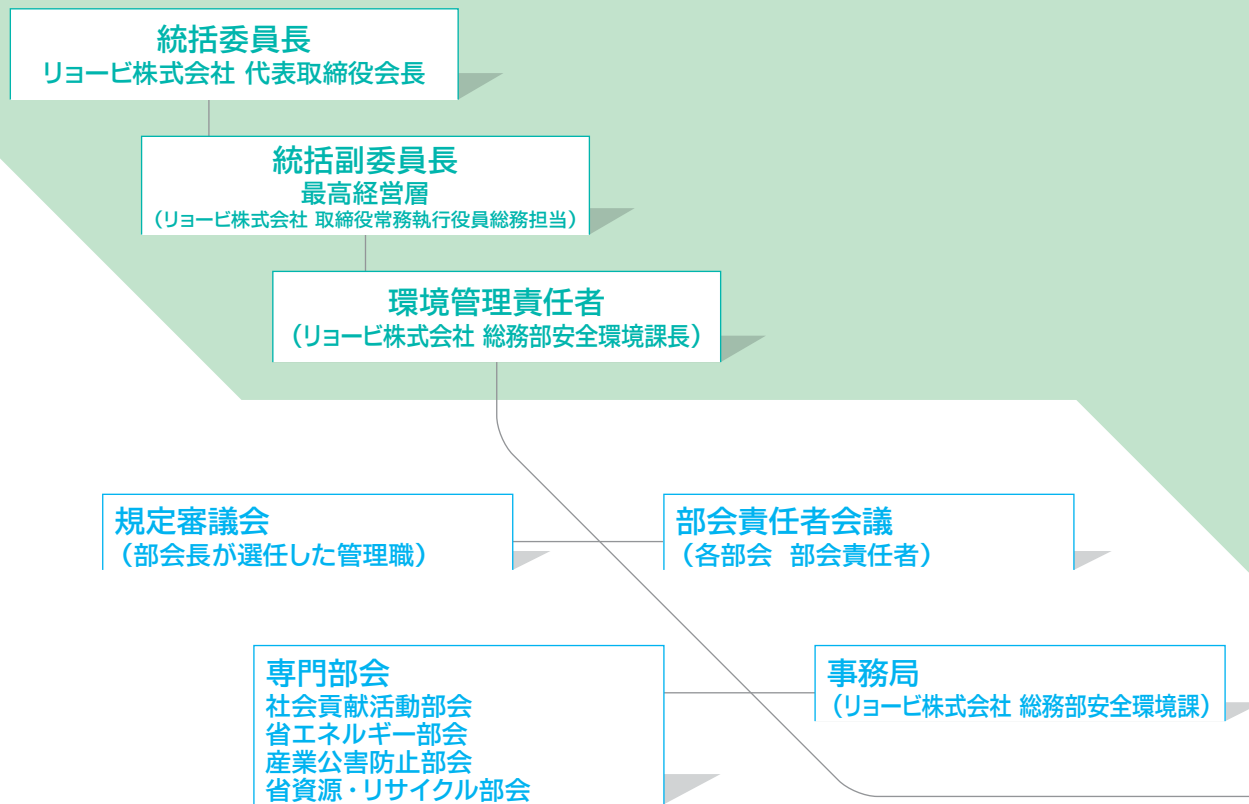
ダイカスト本部静岡部会

リョービ株式会社 静岡工場
〒421-3292 静岡県静岡市清水区蒲原5215-1



リョービ環境保全委員会の運営組織図 (ISO 14001推進組織)

環境管理運営会議構成メンバー



リョービの環境保全活動は次のとおり推進しています。

1. 全体的な活動はリョービ環境保全委員会に規定審議会、部会責任者会議、専門部会を設けて行っています。
2. 具体的な活動は部会単位に次のように行っています。
 - ① リョービ環境方針に基づき、各部会の目的・目標を策定。
 - ② 上記を環境管理運営会議で審議・承認。
 - ③ 各部会は目的・目標を達成するための計画を推進単位(各課)ごとに立案し、実行。
 - ④ 各部会の実施結果を環境管理運営会議に報告。
次年度の目的・目標および計画に反映(①~④を繰り返す)

〈2006年度の活動〉

規定審議会：ISO 14001に関する書類の電子化を検討するための会合を開催しました。
今後もペーパーレス化を進めていきます。

部会責任者会議：サーベイランス終了後、指摘事項の徹底やその水平展開を実施するための会合を開催しました。

構成員 総合計 4,669名

本社部門部会	構成員数 230
ダイカスト本部広島部会	構成員数 959
ダイカスト本部静岡部会	構成員数 641
グラフィック システム本部部会	構成員数 576
住建機器本部部会	構成員数 121
建築用品部会	構成員数 110
東京部会	構成員数 226
大阪部会	構成員数 70
名古屋部会	構成員数 87
リョービミラサカ部会	構成員数 689
リョービミツギ部会	構成員数 345
東京軽合金製作所部会	構成員数 407
生野部会	構成員数 36
リョービパワーツール部会	構成員数 140
リョービ開発部会	構成員数 32

部会内の運営体制(例)

2007.3.1現在



推進単位は全部会合計で105

環境目的・目標

環境目的とは、リョービ環境方針に基づき中・長期的に目指す姿を具体化したものです。環境目標とは、それを実現するための年度別目標です。環境目的・目標は、部会の推進単位（課単位）ごとに「環境マネジメントプログラム」に落とし込んで実施されます。各部会の活動と実績の一部を紹介します。

	目的	目標	2006年度実績
環境マネジメントシステム 法令及びその他の 要求事項の遵守 P.12▶	環境法規制及びその他の要求事項を遵守し、環境汚染を防止する。	遵守状況を定期的に評価し、不適合ゼロを達成する。	不適合事例なし。 ＜リョービミラサカ部会＞
	広島東工場は、第二種エネルギー管理指定工場であり、省エネルギー法を遵守すると共に、CO ₂ 排出量の削減を行う。	省エネルギー法の要求事項である原単位1%削減を遵守する。(2005年度比)	工場増築にともなう工作機械及び塗装設備の新設によりエネルギー使用量が増加したため、原単位37%増加。 ＜グラフィックシステム本部＞
教育・啓発の推進	環境関連有資格者を計画的に養成する。	不足資格の補充を計画・実施する。	資格取得：6資格、25名 ＜ダイカスト本部広島部会＞
		必要資格・人数を把握し、各年の教育訓練計画にて養成する。	危険物取扱者3名、公害防止管理者（大気）1名、エネルギー管理士1名取得。 ＜リョービミラサカ部会＞ 公害防止管理者（振動1名、騒音1名）、エネルギー管理士4名取得。 ＜リョービミツギ部会＞
環境保全の取り組み 省資源 省エネルギー P.10▶	天然資源保護のため、主材料及び搬送用・梱包用材料の購入量を2009年3月までに3%削減する。(2005年度比)	材料のリサイクルや効率的活用を推進し、購入量を1%削減する。(2005年度比)	金型電極材の直彫り加工及び再利用の推進により、電極材を42.1%削減。再利用の推進により、金型部品材を1%削減。遊休梱包材の再利用により、梱包材の購入を8.3%削減。 ＜ダイカスト本部広島部会＞
	天然資源保護及び環境保護のため、グリーン購入調達の拡大を図る。	グリーン購入調達を推進し、購入金額を2%向上する。(2005年度比)	グリーン購入調達4%向上。 ＜リョービミラサカ部会＞
	天然資源保護のため、電力、重油、ガスの使用量削減を目指し、2010年3月までに4%削減する。(2006年3月度比)	使用機器・備品の操作、管理方法を再検討・改善し、2007年3月までに1%削減する。(2006年3月度比)	設備の計画休転、溶解保持炉の定期点検・修理・更新、インゴット予熱装置の新設、省エネ意識向上活動により、2%削減。 ＜リョービミツギ部会＞
地球温暖化防止 P.10▶	重油使用量によるCO ₂ 排出量を削減する。	重油使用量によるCO ₂ 排出量を0.5%削減する。(2005年度比)	エンジンコンプレッサー、蒸気ボイラーの重油使用量削減により、CO ₂ 排出量を2.7%削減。 ＜建築用品部会＞
	地球温暖化防止のため、温室効果ガス（CO ₂ 等）の排出量を削減する。	アイドリングストップ、経済走行を意識した運転、走行距離及び燃料使用量の管理により、燃費を1%向上する。(2005年度比)	燃費1.2%向上。 ＜大阪部会＞
水質・大気・土壌 汚染の防止 P.11▶	水質・土壌汚染防止のため、液体保管物（切削油、作動油、潤滑油、溶剤等）の使用量を2009年3月までに3%削減する。(2005年度比)	液体保管物の液モレ・コボレの排除、効率的活用を推進し、使用量を2007年3月までに1%削減する。(2005年度比)	液体保管物（切削油、作動油、潤滑油）の使用量を目標より14.9%削減。 ＜ダイカスト本部広島部会＞
	水質・土壌汚染防止のため、汚泥発生量を2009年3月までに5%削減する。(2005年度比)	作動油・冷却水の漏れ防止対策により、汚泥発生量を2007年3月までに2%削減する。(2006年上期平均を基準)	汚泥発生量3.6%削減。 ＜ダイカスト本部静岡部会＞
	水質・土壌汚染防止のため、液体保管物（切削油、溶剤、廃液等）の管理を維持する。	液体保管物（切削油、溶剤、廃液等）の保管量及び排出の管理を維持する。また、廃棄物の分別を維持する。	安全衛生パトロールの中で、液体保管物の分別・保管・排出手順及び廃棄物の分別が正しく運用されているかを確認、特に問題なし。 ＜グラフィックシステム本部＞
廃棄物の削減 リサイクル率の向上 P.11▶	環境汚染防止のため、廃棄物の削減及びリサイクル率の向上を図る。	分解・分類の推進により、廃棄物のリサイクル率を70%に向上する。	リサイクル率71%達成。 ＜住建機器本部部会＞
		廃棄物のリサイクル率を2007年3月までに3%向上する。(2004年度比)	リサイクル率73.8%達成で、3.5%向上。 ＜名古屋部会＞
		廃棄物の分別、リサイクルの強化・推進により、廃棄物を1%削減し、リサイクル率を1%向上する。(2005年度比)	総排出量11%（原単位18%）削減。リサイクル率1%向上。 ＜リョービミツギ部会＞
社会貢献	→ P.24-25参照		

マテリアルバランス

事業活動に必要なエネルギーや資源の投入量（INPUT）と、事業活動から発生するCO₂や廃棄物の排出量（OUTPUT）をまとめたものです。これらを把握・分析し、より効果的な環境負荷低減と環境に配慮した事業活動を推進しています。ダイカスト製品の原材料であるアルミニウム合金はリサイクル性に優れています。生産工程において発生するバリなどの製品以外の部分は社内で再溶解され、原材料として再利用されています。

2006年度

INPUT（年間）

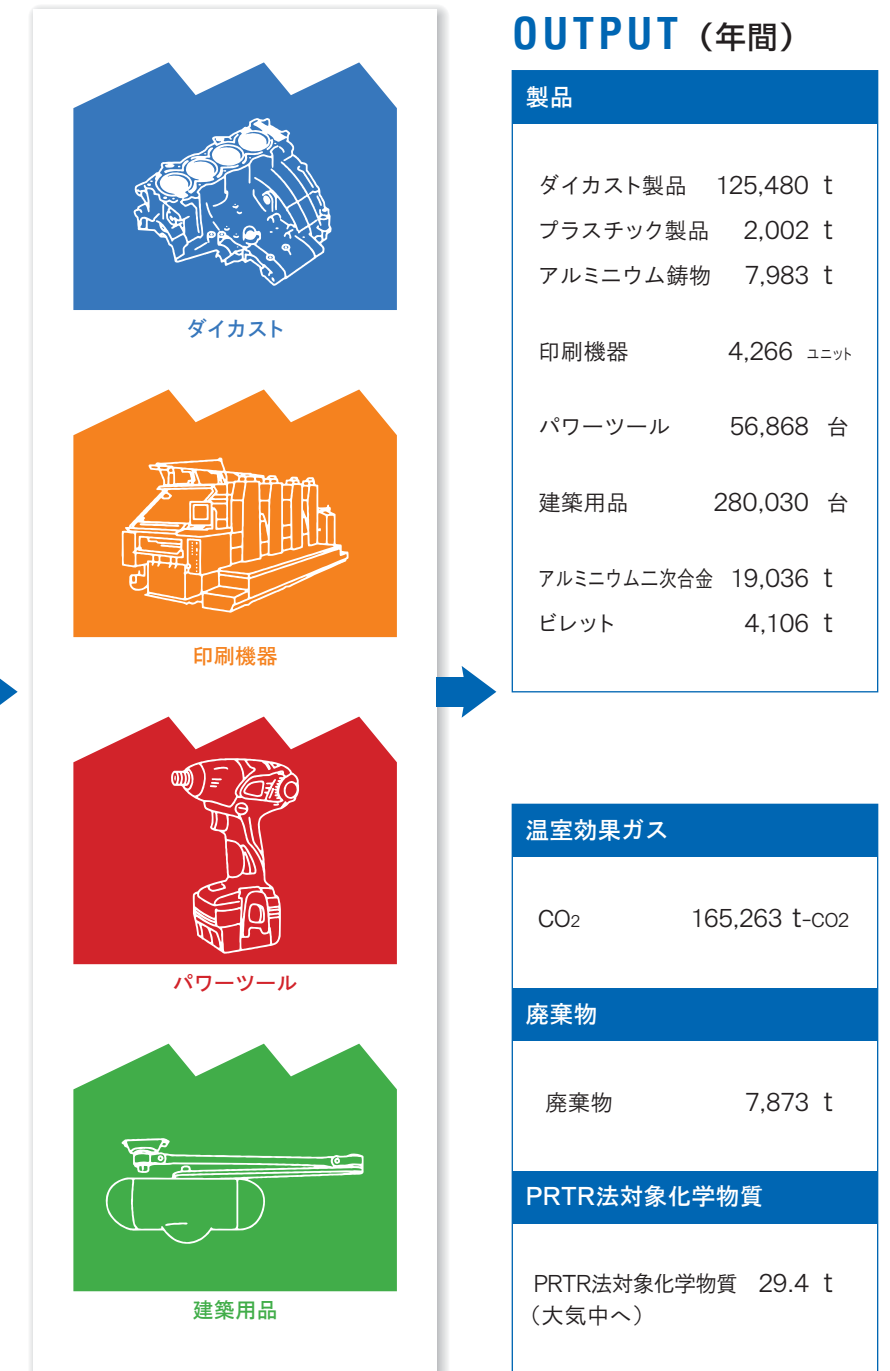
エネルギー	
電気	157,398,396 kWh
都市ガス	3,098,167 m ³
LPG	2,508,764 kg
油（原油換算）	23,706 kℓ

原材料

アルミニウム	140,380 t
プラスチック	2,133 t
亜鉛	900 t
マグネシウム	540 t
その他	410 t
鉄（棒材）	187 t
電磁鋼板	116 t
銅線	27 t
アルミスクラップ	28,864 t
アルミ新塊	2,100 t
シリコン	1,664 t
その他	363 t

水

水使用量	1,429,210 m ³
------	--------------------------

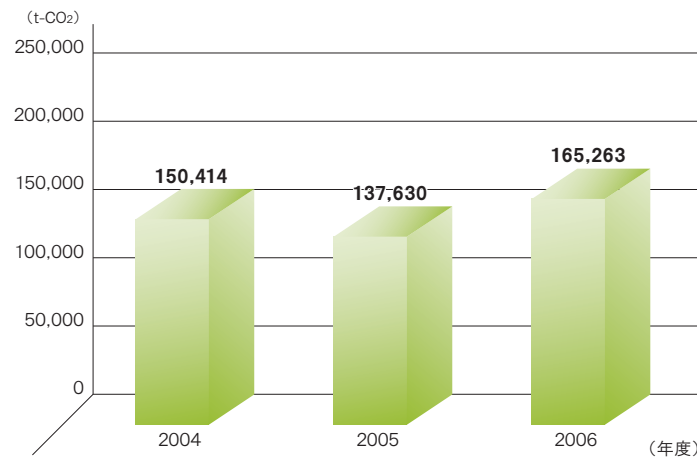


環境パフォーマンスデータ

温室効果ガスへの取り組み

リョービ環境保全委員会の専門部会として、省エネルギー部会を設け、温室効果ガス削減に取り組んでいます。2006年度の温室効果ガスの排出量は、CO₂換算で16.5万トンでした。生産量増加に伴い、前年度と比較して約20%増加しました。

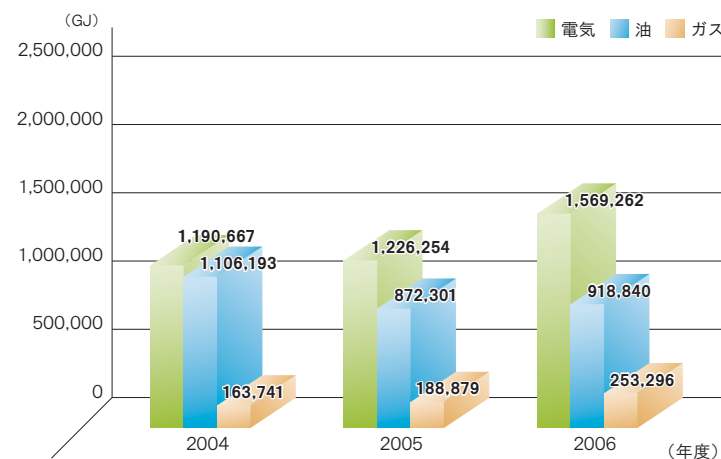
CO₂排出量の推移



エネルギーの効率利用への取り組み

2006年度の電気使用量は156.9万GJ、油（原油換算）使用量は91.8万GJ、ガス使用量は25.3万GJとなりました。生産量増加に伴い、前年度と比較して、電気は約22%、油は約5%、ガスは約25%増加しました。

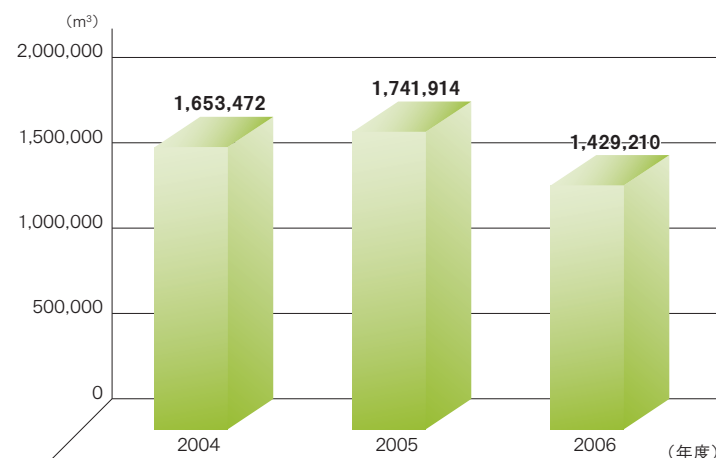
エネルギー使用量の推移



水資源の効率利用への取り組み

流量計などを設置して、使用量を適切に管理することにより、2006年度の水使用量は、1,429千m³となり、前年度と比較して約20%削減しました。

水使用量の推移

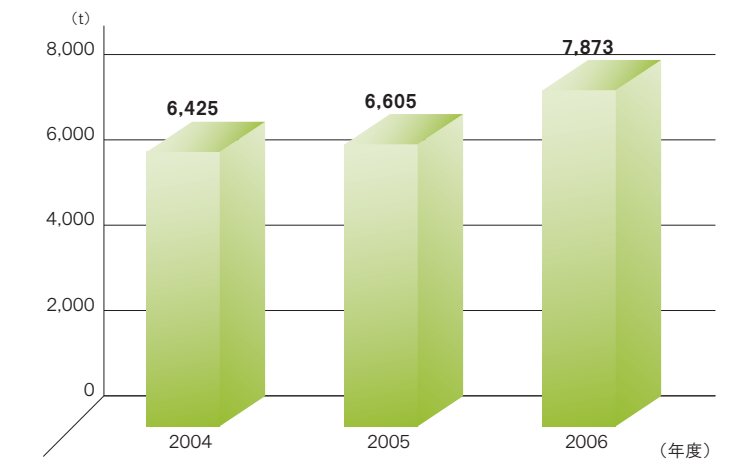


廃棄物への取り組み

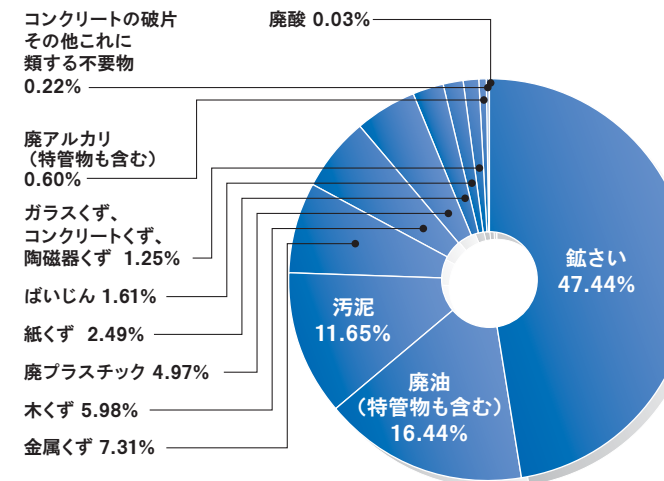
2006年度の廃棄物排出量は7,873トンと前年度と比較して約20%増加しました。

2006年度は、集計の精度を向上させるために、廃棄物の分類を明確化し、集計フォーマットを変更しました。これにより、以前集計されていなかった項目も対象となり、排出量が前年度より増えました。

廃棄物排出量の推移



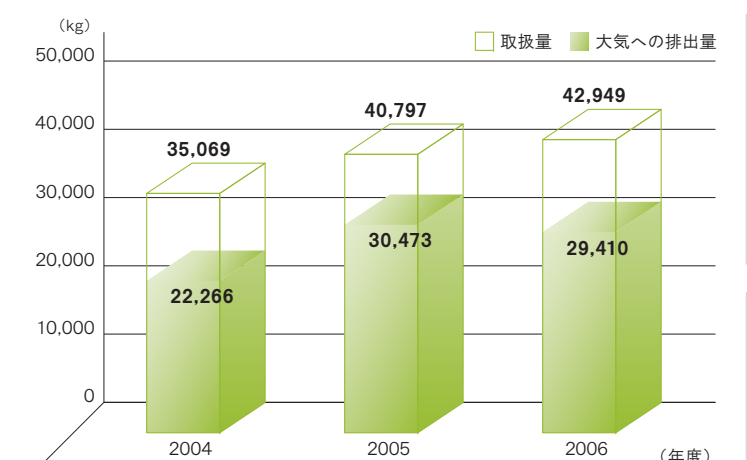
廃棄物排出量の比率



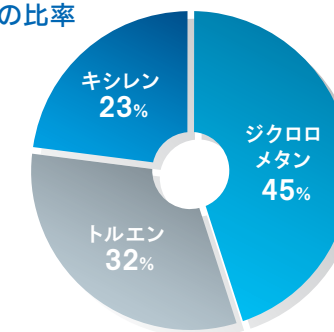
有害物質への取り組み

PRTR法対象化学物質についての2006年度の取扱量は、42.9トンでした。大気への排出量は、29.4トンで前年度と比較して約3%削減しました。また、2006年度の大気への排出量の内訳は、下図のとおりで、ジクロロメタンが45%と最も大きな比率を占めています。

PRTR法対象化学物質排出量の推移



大気への排出量の比率



PCBの管理

2006年度 広島工場で保管しているポリ塩化ビフェニル廃棄物（高圧コンデンサ、蛍光灯安定器など）の届出数は、194台です。外部への流出防止など、法規制を遵守して、適切に保管・管理しています。

環境に関する法規制

部会別関係法令等一覧表

部会名	本社	ダイカスト本部	ダイカスト本部	グラフィックシステム本部	住建機器本部	建築用品部	東京部	大阪部	名古屋部	リョービミラサカ部	リョービミツギ部	東京軽合金製作所部	生野部	リョービパワーツール部	リョービ開発部	
関係法令																
水質汚濁防止法	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
瀬戸内海環境保全特別法	○	○			○	○				○	○		○	○		
下水道法		○		○		○	○	○	○		○					
騒音規制法	○	○	○	○		○				○	○	○	○	○		
振動規制法	○	○	○	○		○				○	○	○	○	○		
大気汚染防止法	○	○	○	○		○				○	○	○	○	○		
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	○	○	○	○		○				○		○	○			
廃掃法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
工場立地法	○	○	○	○		○				○	○	○	○	○		
浄化槽法	○	○	○	○						○		○	○	○		
省エネ法	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○		
消防法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
毒物及び劇物取締法		○	○	○		○				○	○	○	○	○	○	○
リサイクル法					○		○		○					○		
容器包装リサイクル法					○	○	○		○							
ダイオキシン類対策特別措置法			○										○			
高圧ガス保安法		○	○	○						○	○	○	○			
農業取締法																○
PRTR法	○	○	○	○		○				○	○	○	○	○	○	○
都道府県条例、各市町村条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
土壌汚染対策法	○	○	○	○	○					○	○	○		○		
PCB廃棄物特別措置法	○	○	○							○	○			○		
フロン回収破壊法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
建設リサイクル法	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
地域協定		○		○					○	○		○	○			○

環境監査

2006年度 部会別環境監査の状況

外部環境監査結果に関するまとめ

ISO 14001認証審査はロイドレジスター (LRQA) をお願いしています。その結果は以下のとおりです。

1) 2006年5月

グレード	サーベイランス	
	件数	部会別件数
「Major NC」	0件	0件
「Minor NC」	6件	ダイカスト本部静岡部会 3件 東京部会 2件 東京軽合金製作所部会 1件
「RC」	7件	ダイカスト本部静岡部会 5件 名古屋部会 1件 生野部会 1件
「SFI」	5件	ダイカスト本部静岡部会 3件 生野部会 2件

グレード「Major NC」: Major Nonconformity (重大な不適合)
 グレード「Minor NC」: Minor Nonconformity (軽微な不適合)
 グレード「RC」: Requires for correction (要修正)
 グレード「SFI」: Scope for Improvement (改善提言)



2) 2006年11月

グレード	サーベイランス	
	件数	部会別件数
「Major NC」	0件	0件
「Minor NC」	7件	リョービミラサカ部会 4件 リョービミツギ部会 1件 リョービパワーツール部会 1件 リョービ開発部会 1件
「RC」	11件	リョービミラサカ部会 3件 リョービミツギ部会 5件 リョービパワーツール部会 1件 リョービ開発部会 2件
「SFI」	0件	0件



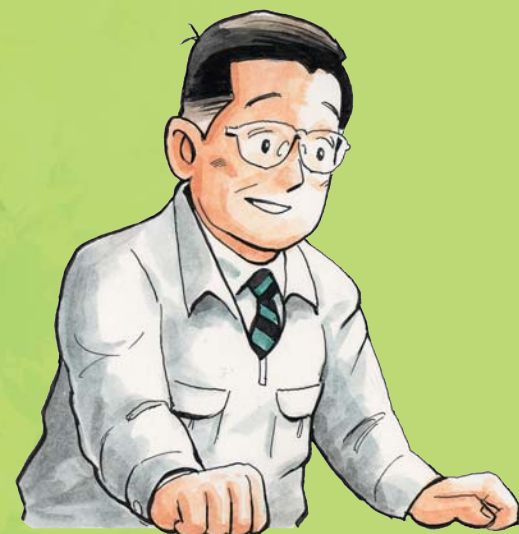
内部環境監査結果に関するまとめ



2007年7月 内部環境監査員養成研修

実施月	部会名															合計
	本社	ダイカスト本部	ダイカスト本部	グラフィックシステム本部	住建機器本部	建築用品部	東京部	大阪部	名古屋部	リョービミラサカ部	リョービミツギ部	東京軽合金製作所部	生野部	リョービパワーツール部	リョービ開発部	
2006年9月	5	0	9	1	3	4	0	0	0	7	5	14	2	5	2	57
2007年2月	3	4	10	6	0	3	0	0	0	7	1	19	2	3	0	58

知ってる!? リョービのこと。



Mr. 環境保全

未来の地球環境や暮らしのためにできることを日夜考え、形にしていく環境保全技術研究グループのチーフ。家庭に戻ると中学生の一人娘『碧ちゃん』にめっぼう甘い優しい父親である。

Environmental Preservation Technology

環境保全技術

リョービは「らしごこち」をテーマに、
暮らしの中にゆとりと豊かさを創造する
“モノづくり”に全力で取り組んでいます。

環境保全においても、環境に配慮した商品の開発をはじめ、
生産・販売からお客様にお使いいただくまでの
様々なプロセスにおいて発生する
環境負荷の低減を推進しています。

<ダイカスト>

ダイカストとは?	16
ダイカスト製品のライフサイクルアセスメント	17
自然にやさしい「植物系難燃性作動油」	17
鑄造工場のエアリーク対策による使用電力の削減	18
次世代油性離型剤と少量塗布技術による廃水および汚泥の削減	19

<印刷機器>

リョービの印刷機器と環境対応	20
----------------	----

<パワーツール>

環境に配慮した商品開発	22
環境に配慮した商品	23



ダイカストって、なあに？



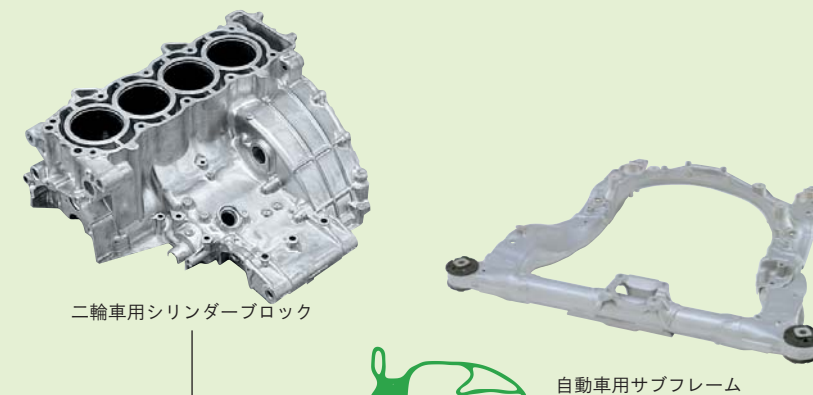
ダイカストとは？

環境保全に有効な技術として注目のダイカスト

ダイカストは、精密な金型に溶かしたアルミニウム、マグネシウム、亜鉛など非鉄金属の合金を高速・高圧で注入し、瞬時に成形する技術および製品のことをいいます。

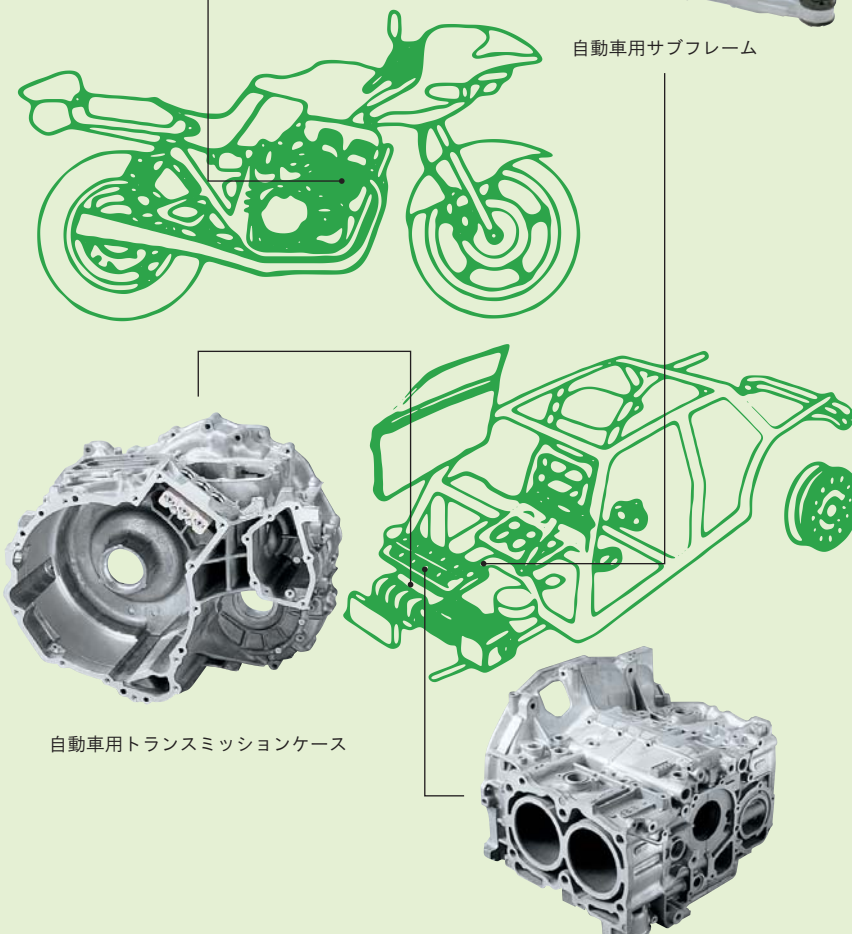
ダイカストは、高い寸法精度が得られ、薄くて複雑な形状の製品を大量に生産することができます。

このような優れた特徴をもつダイカスト製品は、自動車やオートバイをはじめ、家電、OA機器、建築用品などさまざまな分野の構成部品として使われています。アルミニウムダイカストは、軽量かつ耐久性に富み、リサイクル性に優れており、省エネルギー、省資源など環境保全に有効な技術として注目されています。



二輪車用シリンダーブロック

自動車用サブフレーム



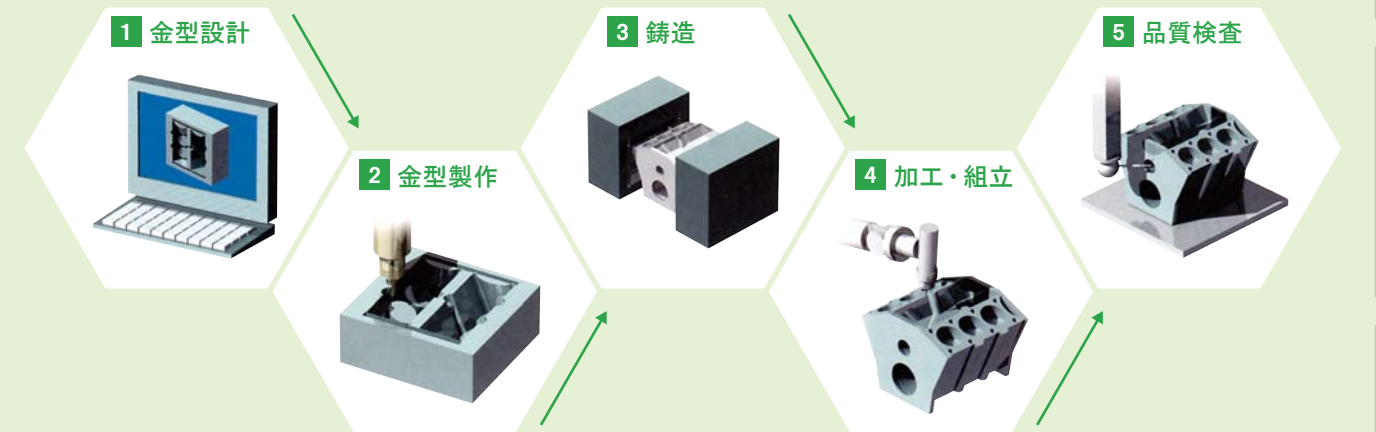
自動車用トランスミッションケース

自動車用シリンダーブロック

ダイカスト製品のライフサイクルアセスメント

リヨービは、コンピューターを駆使した解析から金型の設計・製作、鋳造、加工、組立にいたるまでを一貫して行う世界トップクラスのダイカストメーカーです。

その一貫体制における各プロセスで発生する環境への負荷を評価しています。



設計段階における製品アセスメント

ダイカスト製品や金型によって生じる環境への負荷を低減させるために、設計段階では次のような評価を行っています。

製品について

材質、形状、軽量化（除肉）、VA / VE、有害物質の有無など

金型について

ホルダーの軽量化、規格品の使用、遊休品の利用、特殊金型表面処理など

自然にやさしい「植物系難燃性作動油」

鋳造機やプレス機の油圧ピストン部分では、植物油ベースの難燃性作動油を使用しており、環境はもちろん、安全性にも配慮しています。



作動油の原料となる「菜の花」

<特徴>

CO₂ニュートラル

- 植物油はCO₂排出算定の対象外
- 水+CO₂から植物の光合成により生成された植物油は、燃焼等により分解されて、水+CO₂を排出するが、CO₂の環境負荷はニュートラルである。

生分解性

- 21日間で水とCO₂に100%分解される

低毒性

- 魚を使った急性毒性試験でも安全性の高さが確認されており、万一海や河川に漏れても生物に与える影響を最小に抑えることができる

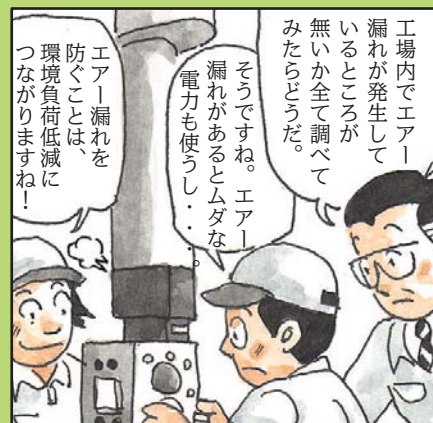
火災への安全性

- 消防法の危険物対象外（指定可燃物に分類）
- FM合格（*アメリカのFactory Mutual Research Corp.の防火規格）

廃油処理

- 将来的には、植物系再生燃料の原料として再利用の可能性がある

生産工程で活躍する環境にやさしい技術



鑄造工場のエアリーク対策による使用電力の削減

鑄造工場のエアリーク修理を不定期に行っていましたが、エアリーク量や修理後のエアリーク削減量が把握できていませんでした。

そこで、定期的に測定器でエアリーク量を測定し、一元的に数値管理できるように次のとおり改善を実施しました。

- ◎ 鑄造機ごとに測定用配管を設置
- ◎ 月2回の測定実施
- ◎ エアリーク表示札によるエアリーク箇所の見える化
- ◎ グラフによるエアリーク量の推移の見える化

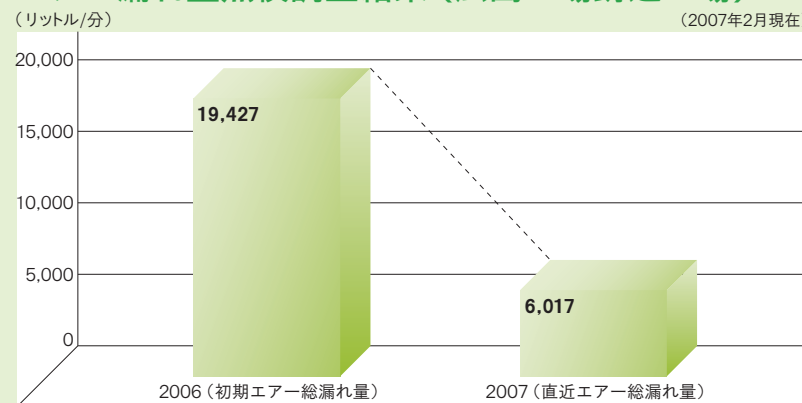
エアリーク箇所の実例



漏れ原因の傾向と対策

漏れ原因の傾向	対策
エアチューブの劣化により径が縮小している	材質・仕様の見直し
3点セットのカップ内のミスト溜りによりドレンロが閉じないため、漏れが多く発生している	カップの材質の見直し ポリカーボネイト→アルミ
接続部シール剤(のり状)の塗布が不十分なため、隙間から漏れが発生している	シール作業方法の見直し
内部のOリングが磨耗している	定期交換の実施
シリンダー内のシールが磨耗している	定期交換の実施
ホースやチューブのスレや溶け、焼けによる穴あきが大半を占めている	材質・仕様の見直し ホース等の取り付け位置の変更
カブラ接続部からの漏れが多くを占める	材質・仕様の見直し

エアリーク量点検調査結果(広島工場鑄造工場)



効果

目で見る管理ができるようになり、省エネ効果および改善維持活動が継続できます。
使用電力量の削減 54,000~67,000kWh/月

次世代油性離型剤と少量塗布技術による廃水および汚泥の削減

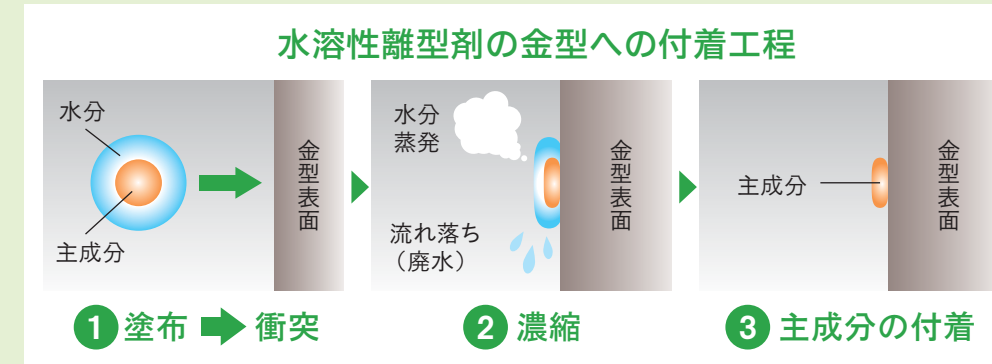
水溶性離型剤の欠点である「水」を排除した次世代油性離型剤の開発・導入により、環境面でも大幅な改善が期待できます。特に廃水や乳化剤の排出削減、廃水処理後に発生する汚泥の削減に効果があります。

これらは、リョービと株式会社青木科学研究所、株式会社山口技研との共同開発によるものです。

水溶性離型剤から次世代油性離型剤WFRへ

一般的に用いられている水溶性離型剤は、主成分である油分を界面活性剤によって水分中に乳化させ、金型に噴きつけます。そのため、乳化された溶液は多量の廃水、乳化剤、汚泥の排出につながり、大規模な廃水処理が必要となります。また、水分を金型から除去するために大量の圧縮エアを噴きつけるブロー工程が必要なため、多くの電力を消費します。

次世代油性離型剤WFRは、水分を含まない原液塗布型の油性離型剤で、水溶性離型剤のわずか1/1000程度の塗布量で高い性能を発揮します。不安定要素である水を排除したこの離型剤は、マイクロミスト(微粒子)スプレーによる少量塗布技術と併せて、高品質、高生産性、ローコストなダイカストプロセスを実現しました。



離型剤の塗布量と組成 (800tダイカストマシンの例)

	水溶性	WFR
塗布量 (ml)	800	0.8
組成 (%)	水	99.75
	油分	0.21
	乳化剤	0.04
	溶剤	0
	0	87



次世代油性離型剤WFRによる環境改善

金型に塗布される水溶性離型剤のほとんどは、乳化剤、油分を含む水溶液として、汚水槽に流されます。平均的なサイズである800tダイカストマシンで計算すると、1ショット当たり800mlの水溶性離型剤を使用した場合、1台で年間およそ250トンもの乳化剤を含んだ廃水が排出されることとなります。

これを油性離型剤WFRに変更した場合、わずか0.8mlの塗布量のうち、溶剤である基油が1ショット当たり約0.7ml空気中に気化するのみで、廃水や乳化剤、汚泥の排出はなくなります。

また、水溶性離型剤使用時には水分除去の目的でエアブロー工程が必要不可欠ですが、油性離型剤WFRは、金型の温度のみで溶剤が気化するため、ブローの必要がありません。エアブローは、主に電動コンプレッサーで作られた高圧圧縮空気を uses。つまり、電力消費量削減によるCO2排出の低減にもつながります。

各離型剤での排出量

	水溶性	WFR
廃水	多量	ゼロ
乳化剤	多量	ゼロ
汚泥	多量	ゼロ
CO2	多量	低減

リョービの印刷機器と環境対応

環境に対応した印刷機の開発

RYOBI 750シリーズが欧州連合 (EU) 公式認定の環境対応規格「BG環境テスト認証」を取得

環境への対応は、印刷会社の重要な課題の一つになっています。

印刷会社がISO 14001の認証を取得されるケースも増えていきます。また、印刷時に使用し放出するインキや湿し水の揮発性有害物質の削減や、印刷機の騒音抑制など、環境に配慮した印刷機・印刷技術へのニーズが高まっています。

2007年7月にRYOBI 750シリーズが、印刷時に放出される特定有害物質の抑制基準テストとして世界的に権威のある、欧州のBG環境テスト認証 (BG Test Certificate) を取得しました。



RYOBI 754



認証証書

認証を受けた印刷機 (油性インキ使用)

RYOBI 754/755

環境対応印刷を積極的に提案

リョービは、2005年から現在に至るまで、国内外の各種展示会やオープンハウスにおいて、「省エネ」「省スペース」を考慮したエコノミー設計のB2判4色印刷機「RYOBI 784E」などを使用して、試し刷り時の用紙・インキなどの印刷資材の使用を最小限に抑える印刷デモを行っています。現像処理が不要な版材やVOC (揮発性有機化合物) の発生が少ないインキの使用により、印刷時の有害物質の放出を抑制し、地球環境にやさしい環境保護印刷の提案を行っています。

印刷現場で使用される様々な薬品には有機化合物が含まれており、各薬品メーカーからは、有機化合物を抑えた環境対応薬品が販売されています。リョービでは当社印刷機でこれらの薬品を検証し、高品質の印刷物生産に最適な環境対応薬品を選択し、お客様にお勧めしています。



RYOBI 784E



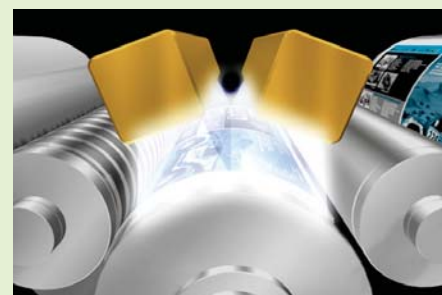
IPEX2006で環境にやさしい印刷をアピール

UV乾燥装置のバリエーションの充実

紫外線によって印刷物を強制的に瞬時に乾燥させるUV印刷では、VOC (揮発性有機化合物) を含まないインキを使用するため、VOCの大気への排出がありません。さらに、スプレーパウダーの使用量削減により、オペレーターの作業環境を改善できます。

またニスコーター付きの印刷機では、UVニスコーティングにより、光沢のある印刷や印刷表面の保護が、ポリ塩化ビニルを使わないで行えます。

当社は、排紙部のUV乾燥装置だけでなく、印刷ユニット間に設置するインターデッキUV乾燥装置を開発し、環境対応した様々な高付加価値印刷を提案しています。



反転装置上インターデッキUV乾燥装置

環境にやさしい工場

リョービ株式会社 広島東工場 グラフィック システム第2工場増築

中型印刷機の海外からの好調な受注に対応し、増産及び納期短縮に因るため、昨年4月に完成したグラフィックシステム第2工場を増築しました。2007年8月に竣工式を終え、11月から本格稼働します。

増築した工場の延べ床面積は約9,200m²、1階が組立・検収、2階が部分組立と組立用部品倉庫を備えています。これにより生産能力は、2006年3月時点の2倍強になります。

「限りなき挑戦で、世界のお客様と共に成長する」をコンセプトとし、次のような工場を目指します。

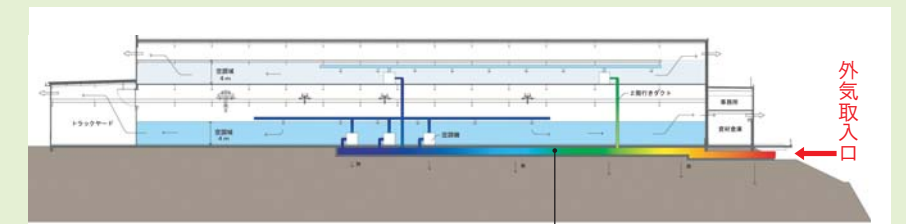


増築したグラフィックシステム第2工場

- 1 受注から生産、出荷までのリードタイムの短縮など、生産性の高い工場
- 2 温度、湿度を常に一定に保つなど、品質管理に優れた工場
- 3 CO₂の削減や省エネルギーなど、人や環境にやさしい工場

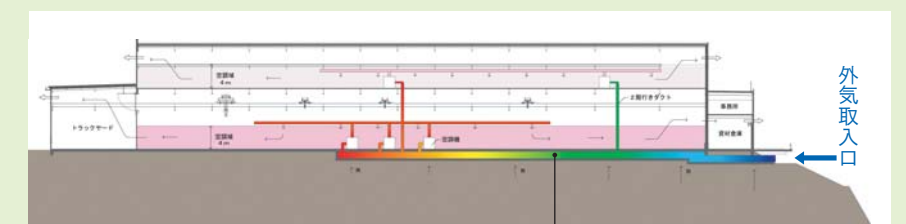
環境に対応した空調設備

ミクロン単位の加工・組立精度を要求される印刷機製造にあたって、精密加工や組立検収等の工場現場の温度管理は重要な項目の一つです。新工場では、環境に対応した省エネタイプの空調設備を採用しています。この空調設備は、年間を通じてほぼ一定の地中温度の特性を利用した設備です。外気を地下に設けたトンネル (クールチューブ) を通して取り込むことにより、夏は外気を冷却し、冬は外気を暖め、空調の負荷を低減した自然のエネルギーを活用した省エネ技術を採用した設備です。このシステムにより工場内の空調のためのLPガスの消費を削減することができます。またガス空調設備は地球温暖化ガスCO₂発生が少ない環境に対応した設備です。



夏季

クールチューブ 高温の外気を地中で冷却します



冬季

クールチューブ 低温の外気を地中で暖めます

印刷業界にとっても環境への対応は大きな課題ということで、我々リョービの技術者にも相談が多いんです。そこで、「よし!」とばかりに立ち上がった技術者たちが、損紙の削減や省エネ対応の印刷機、現像処理の不要な版材やUV印刷に代表されるVOCの発生が少ないインキが利用できる印刷技術の開発などを実現。今や印刷業界でもリョービは知られる存在なんですよ。



環境に配慮した商品開発

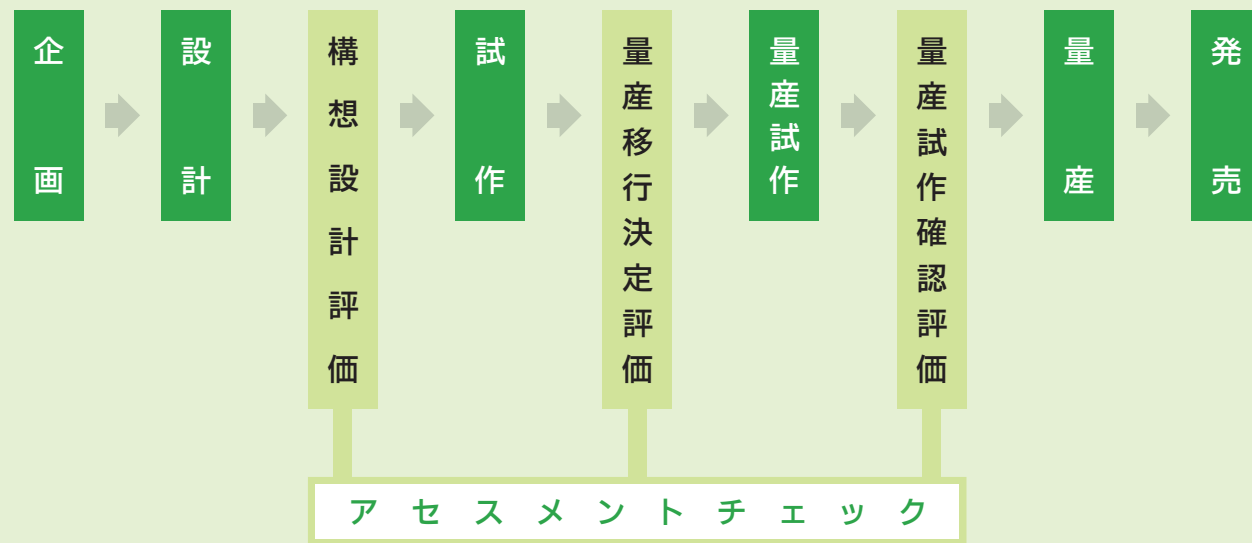
3R (Reduce・Reuse・Recycle) に着目した商品の開発設計

天然資源の消費を抑制し、環境負荷を低減するために

- 第一に **Reduce** : 長寿命化などにより廃棄物発生を抑制する
 - 第二に **Reuse** : 使用済のモノを再使用する。
 - 第三に **Recycle** : 使用済のモノを再生使用する。
- 最後に適正処分する。 **といった3Rを中心とした取り組みが重要です。**

商品を開発設計する際には、環境負荷の低減を重要な要素のひとつにしています。これを製品アセスメント基準に織り込み、3つの評価段階で適合性をチェックしています。既存品については設計変更時に同様の視点で見直します。

開発から発売までのフロー例



製品アセスメント基準の環境関連チェック項目例

- | | |
|--|--|
| <p>1 材料の選定段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 使用素材の種類は現状より増えていないか ■ リサイクルの容易な素材を使用しているか | <p>3 使用段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 消費電力の削減をはかっているか ■ 有害物質の廃棄を最少化または減少させているか |
| <p>2 加工・組立段階</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 部品点数は現行機より減少したか ■ 部品加工時、エネルギーをできるだけ使用しない形状になっているか ■ 製造工程で発生する廃棄物の量を最少化するよう、材料、製法、工程について事前評価しているか | <p>4 廃棄</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 商品の解体が容易なユニット構成となっているか ■ 再資源化、廃棄に際して特別な配慮を要するユニットの分解・分離性は適切か ■ ユニットの部品は単一材料へ容易に分離分解できるか |

環境に配慮した商品

環境にやさしいリチウムイオン電池を採用

充電式インパクトドライバ 「BID-142」

- <主な特長>
- 1 従来品より長寿命なリチウムイオン電池を採用
 - 2 用途に合わせて締付力(トルク)の調節が可能
 - 3 LEDライトにより暗い場所でも確実に作業ができる
 - 4 便利な電池残量表示とスライド式着脱の電池パック



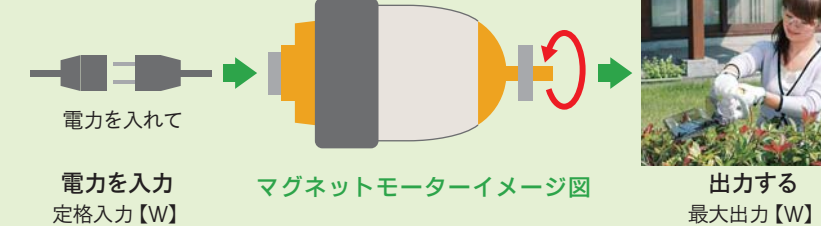
マグネットモーターにより消費電力を40%削減

ヘッジトリマ 「HT-3020/HT-3520」

コンパクト・ハイパワー・省エネルギーを実現!

剪定しながら刈り取った葉や枝を収集できる大型チップレシーバ付き

<モーターのしくみ>



従来のもーターと比較すると

項目	機種 HT-3511 (従来モーター)	対比すると	HT-3520 新採用 (マグネットモーター)
形状(大きさ)		>	従来よりコンパクト
定格入力【W】	300	>	180 消費電力を40%削減
最大出力【W】	160	=	160 仕事量は同等以上
トルク【N・m】 (最大出力時)	0.15	<	0.16

環境負荷の低減、これはリョービの技術者たちの大きな使命。そこで、商品開発の設計段階から製品アセスメント基準にこの要素を織り込んで、きちんと適合性をチェックしています。だから優れた環境配慮型商品が生み出せるんだと技術者たちは自負しているんです。



2006年度 部会別社会貢献活動一覧

No.	事業所・部会	社会貢献活動の内容	年間回数	延参加者数	備考
1	本社 ・本社部門部会 ・ダイカスト本部広島部会 ・住建機器本部部会 ・建築用品部会	1 アルミ缶回収運動、収益金の寄付	24回		収益 1,136,317円
		2 芦田川クリーン作戦	1回	732人	
		3 チャリティバザー、収益金の寄付	1回		収益 267,575円
		4 献血	5回	270人	
2	東京 ・東京部会	1 使用済み切手・カード回収、区役所・社会福祉法人に寄贈	1回		古切手 4,430枚 バスカード 950枚
3	大阪 ・大阪部会	1 支店前歩道の清掃、草取り	1回	10人	
4	名古屋 ・名古屋部会	1 会社周辺道路の清掃	12回	165人	
		2 献血	1回	15人	
5	広島東工場 ・ダイカスト本部広島部会 ・グラフィックシステム本部部会	1 本社に含む			
6	静岡工場 ・ダイカスト本部静岡部会	1 アルミ缶回収運動、収益金の寄付	随時		収益 5,524円
		2 工場及び国道1号線バイパス周辺の清掃	12回	2,068人	
		3 献血	2回	79人	
7	印刷機器工場 ・グラフィックシステム本部部会	1 本社に含む			
8	府中物流センター ・ダイカスト本部広島部会	1 本社に含む			
9	御調第一物流センター ・建築用品部会	1 本社に含む			
10	リョービミラサカ ・リョービミラサカ部会	1 アルミ缶回収運動、収益金の寄付	毎日		収益 567,513円
		2 県道クリーン作戦	1回	500人	
		3 献血	1回	40人	
11	リョービミツギ ・リョービミツギ部会	1 アルミ缶回収運動、収益金の寄付	12回		収益 184,828円
		2 クリーン作戦（会社周辺の清掃）	2回	100人	
12	東京軽合金製作所 ・東京軽合金製作所部会	1 アルミ缶回収運動、収益金の寄付	12回		収益 75,100円
		2 会社周辺の清掃	11回		
		3 献血	2回	57人	
13	生野 ・生野部会	1 アルミ缶回収運動、収益金の寄付	6回		収益 108,993円
14	リョービパワーツール ・リョービパワーツール部会	1 アルミ缶回収運動、収益金の寄付	随時		収益 4,250円
		2 会社周辺道路の清掃、草取り	2回	40人	
15	リョービ開発 ・リョービ開発部会	1 進入路近辺公道の清掃	3回	30人	
		2 市道沿い排水溝の掃除	9回	25人	

社会貢献活動の紹介

1. アルミ缶回収運動

リョービとアルミニウムは深い関係があります。そのアルミニウムのリサイクル性に注目して本社近辺の事業所では、社員が2回/月、自宅などからアルミ缶を持ち寄り回収し、アルミ再生業者に販売してその収益金をNPO法人リョービ社会貢献基金へ寄付をしています。また、同じような活動は他の事業所でも行っています。



第396回 アルミ缶回収

2. 芦田川クリーン作戦・事業所周辺の道路清掃

本社近辺の事業所では、全社員に呼びかけて毎年11月の第1日曜日の早朝、本社近辺を流れる「芦田川」、5.5kmの両岸の土手、河川敷の空き缶、ゴミ拾いを行っています。この活動は1990年にリョービ環境保全委員会が発足して以来毎年継続して実施しており、2006年11月で17回目を数えています。最近では家族の参加も目立っています。また、他の事業所でも周辺の道路清掃などを定期的に行っています。



第17回 芦田川クリーン作戦

3. チャリティバザーの開催

社員の家庭に眠っている不用品の提供を呼びかけて、2007年2月に第8回チャリティバザーを行いました。その収益金はアルミ缶回収運動の収益金と同様、NPO法人リョービ社会貢献基金へ寄付しました。

4. 献血

日本赤十字社からの依頼で社員に呼びかけをし、事業所構内で献血車による献血を積極的に行っています。

NPO法人 リョービ社会貢献基金の事業活動

2006年度の物品寄贈報告

NPO法人リョービ社会貢献基金では、社会貢献活動の一環として、事業所所在地の社会福祉施設などに物品の寄贈を行いました。



三次市社協へ物品寄贈

行田市社協へ物品寄贈

寄贈先	寄贈品
広島県 府中市社協	軽自動車（ホームヘルパー活動用）
尾道市社協	カラーリング競技用セット2式
三次市社協	レッグプレス1台、介助用車椅子1台、セーフティシート1式 など
世羅町社協	車椅子2台
庄原市社協	ワンタッチイベントテント1式
東京都 北区社協	車椅子5台
埼玉県 行田市社協	ファイバーマットレス10枚、入浴シャワー・トイレ兼用車椅子3台、フルリクライニング車椅子1台
静岡県 静岡市社協	モバイルプロジェクター
愛知県 名古屋市中区社協	高齢者体験実習教材1式、点字器60個
大阪府 高槻市社協	車椅子3台
兵庫県 朝来市社協	オープンレンジ1台

ボランティア等活動資金助成について

設立以来、社会福祉協議会を通じた物品の寄贈事業やボランティアの派遣等を行ってまいりましたが、2005年度より、少しでも豊かな社会の実現のお役に立てればと願い、「ボランティア等活動資金助成」と名付けて、常日頃からボランティア活動や非営利活動をされている団体・グループの方に対し、活動資金の助成事業を行っています。



広島県府中市

静岡県静岡市

資金助成先	所属人員	設立年	助成額	用途
広島県府中市 手話サークル「トロコ」	19	1976年	200,000円	デジタルビデオカメラなど機器の購入
府中市要約筆記サークル「伝書鳩」	22	1990年	200,000円	パソコンの購入、研修費など
朗読録音グループ「カナリヤ」	32	1977年	100,000円	講習会費、紙芝居や絵の具の購入
御調町要約筆記サークル「キンコケシ」	4	2005年	150,000円	研修費、OHP・スクリーンなど機材の購入
みつき手話サークル「ひよこ」	7	1997年	50,000円	研修費、備品の購入
広島県三次市 朗読「すばるの会」	8	1997年	100,000円	紙芝居、エプロンシアターの購入
静岡県静岡市 藤原手話サークル「かえてハズ」	19	1999年	50,000円	旅費交通費、事務費など
埼玉県行田市 行田朗読の会	15	1980年	50,000円	朗読講習の費用など

※障害者支援、子供への読み聞かせなど、技術を身につけ活動しているボランティアグループを選考。

コミュニケーションについて

1. ホームページ紹介

リョービ株式会社及び国内グループ会社では、ホームページで情報を公開しています。是非ご覧ください。

- リョービ株式会社 <http://www.ryobi-group.co.jp/>
- リョービマジクス株式会社 <http://www.ryobi-group.co.jp/imagix/>
- リョービ販売株式会社 <http://www.ryobi-group.co.jp/r-sales/>
- 株式会社東京軽合金製作所 <http://www.ryobi-group.co.jp/tk/>
- リョービ開発株式会社 <http://www.shobaracc.com/>



2. 地域との公害防止協定に基づく協議会

事業所所在地の行政、近隣などと地域協定（公害防止協定）を締結している事業所<部会>（12ページ表の最下段参照）においては、協定に基づき定期的に工場排水の水質検査結果、煤塵測定結果、騒音測定結果などの報告書を提出したり、協議の場をもつなどコミュニケーションに努めています。

その結果、各事業所とも近隣などと良好な関係が維持されています。

3. 外部からの情報公開要求、苦情等

2006年度は事業所所在地における外部からの情報公開要求はありませんでした。

外部からの環境に関する苦情等についても、次のとおり適切に対応しました。

本社部門部会

2006年10月18日

大型トラック進入用の鉄製扉が閉まる際、稀に大きな振動音があると近隣住民から申し出があった。対応として鉄製扉のモーター仕様を変更し、扉が閉まる1メートル手前でスピードを減速するようにした。従来は、手元スイッチで減速を調整していたため、人によりバラツキがあり大きな振動音を発することがあったが、自動的に減速させることにより、誰が操作しても大きな振動音は発生しなくなった。

コンプライアンス —健全で活力にみちた企業を築くために—

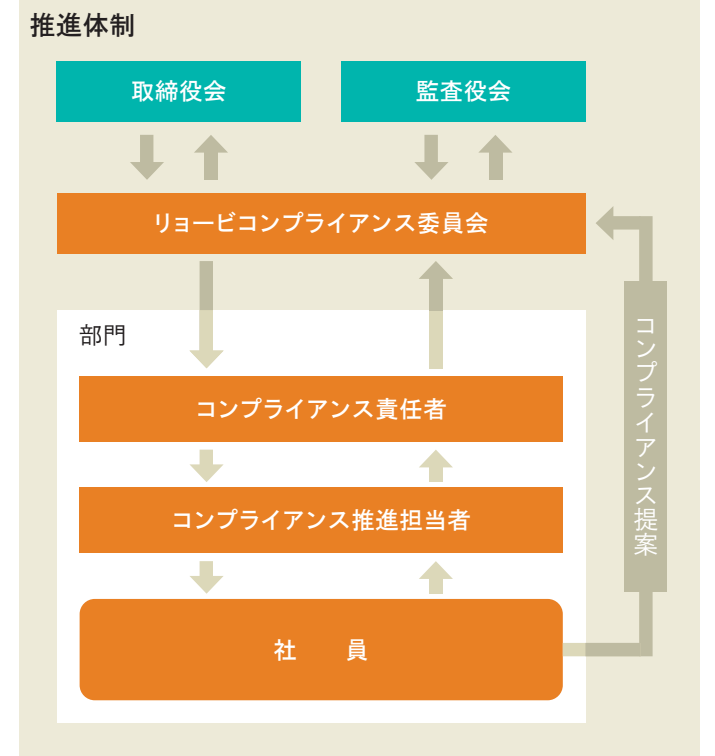
コンプライアンス

リョービは、単に公正な競争を通じて利潤を追求するだけでなく、広く社会から有用な存在として信頼される企業となることをめざします。そのため、コンプライアンスを重要な課題の1つとして取り組み、リョービコンプライアンス委員会を中心とする推進体制の確立や、リョービ企業行動憲章による企業倫理の徹底を図っています。

コンプライアンス推進への取り組み

2003年にリョービコンプライアンス委員会を設置し、グループ全体でコンプライアンス推進への取り組みを始めました。企業倫理の徹底をはかるために「リョービ企業行動憲章」と「リョービ自主行動規準」を制定し、社長（現会長）のメッセージとともに国内リョービグループの全社員に配付しました。

また、コンプライアンスに反する行為や事態に対する会社の自主的な是正・改善機能の強化をはかり、コンプライアンスに関する問題や提案について社員の声を聴く窓口として「コンプライアンス提案窓口」を設置しました。



リョービ企業行動憲章

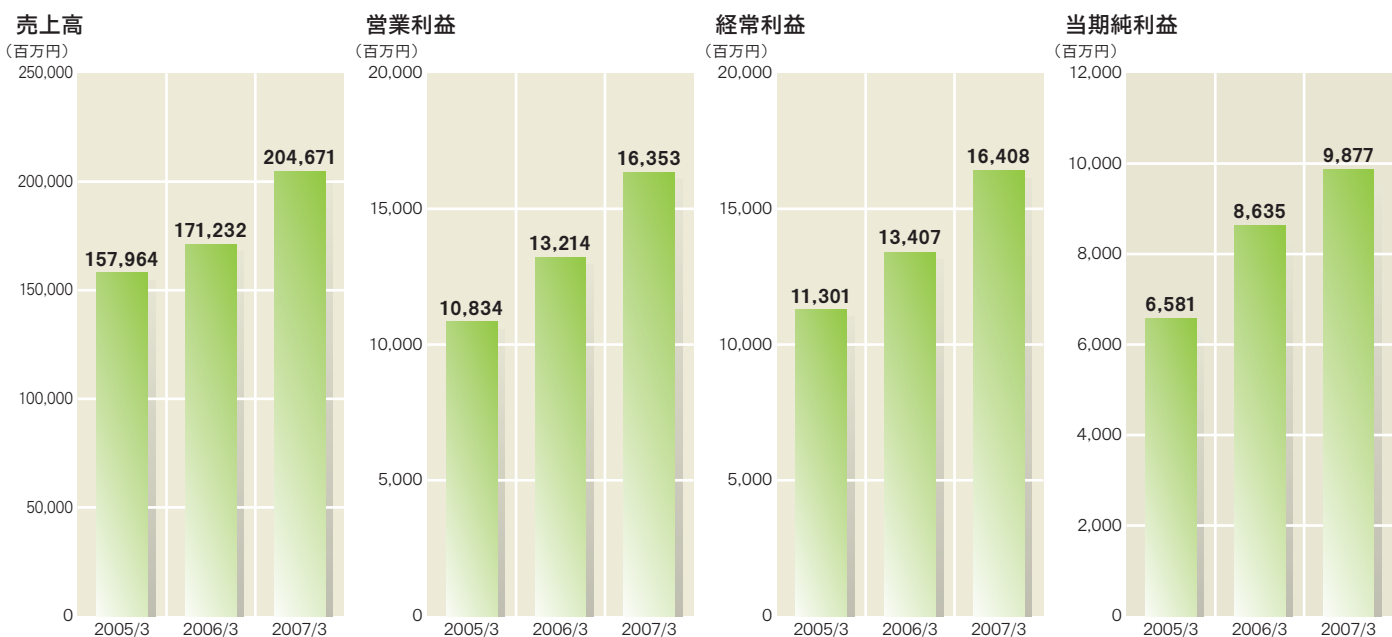
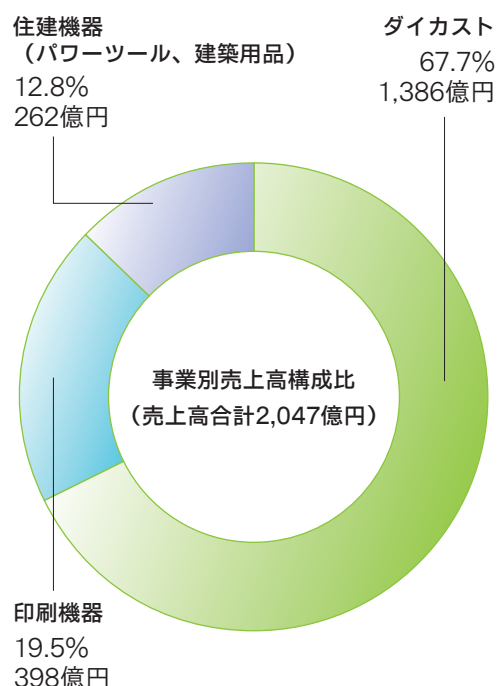
リョービ企業行動憲章は、企業倫理意識の高揚をはかるために遵守すべき行動指針を定めています。当社は企業理念である「健全で活力にみちた企業」の実現のため、全ての法律、国際ルール及びその精神を遵守するとともに社会的良識をもって行動し、単に公正な競争を通じて利潤を追求する経済主体であるだけでなく、広く社会から有用な存在として信頼される企業となることをめざします。

- 1 有用な商品・サービスを安全性に十分配慮して開発、提供し、消費者・ユーザーの信頼を獲得します。
- 2 公正、透明、自由な競争を行います。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を維持します。
- 3 ステークホルダーはもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、情報を積極的かつ公正に開示します。
- 4 環境問題への取り組みが企業存続の必須の要件であることを認識し、地球環境の保全に積極的に取り組みます。
- 5 「良き企業市民」として、積極的に社会貢献活動を行います。
- 6 社員のゆとりと豊かさを実現し、安全で働きやすい環境を確保するとともに、社員の人格と個性を尊重して創意と活力に満ちた職場風土を醸成します。
- 7 市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは断固として対決します。
- 8 海外の活動においては、その文化や習慣を尊重し、現地の発展に貢献する経営を行います。
- 9 当社の経営層は、社会の負託に応えるため、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、関係者への周知徹底と社内体制の整備を行います。
- 10 当社の経営層は、本憲章の精神に反するような事態が発生したときは、自らの責任において問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努めます。また、社会へ迅速かつ的確な情報開示を行うとともに、責任を明確にした上、厳正な処分を行います。

連結業績

(決算期)	2005/3	2006/3	2007/3
売上高	157,964	171,232	204,671
ダイカスト	105,491	114,319	138,622
印刷機器	27,694	32,306	39,829
住建機器 (パワーツール、建築用品)	24,778	24,605	26,219
営業利益	10,834	13,214	16,353
経常利益	11,301	13,407	16,408
当期純利益	6,581	8,635	9,877
総資産	157,420	177,864	202,528
自己資本	55,293	66,756	74,814
設備投資	7,595	11,232	20,385
減価償却費	5,439	6,067	8,195

連結セグメント情報 (2007年3月期)



会社概要

創立年月日 / 1943年12月16日

代表者 / 代表取締役会長 浦上 浩

代表取締役社長 吉川 進

社員数 / リョービ / 2,080名 グループ会社 / 3,707名 計 / 5,787名

資本金 / 18,472百万円

※社員数、資本金は2007年3月31日現在

Environmental Annual Report 2007

編集後記

5回目の環境報告書として「リョービグループ環境報告書 2007」を発行しました。

前回までと同様、ISO 14001をリョービ株式会社と一括で認証取得している国内グループ会社10社を含めたものにしました。

ご高覧いただくとともに、よりよい環境報告書にしたいと思いますので忌憚のないご意見をお願いいたします。

ご意見は、本紙綴じ込みの「アンケート用紙」に記入のうえFAXまたは郵送にてお送りいただければ幸いです。また、お問い合わせなどは下記の電話、FAX、e-mailをご利用ください。

リョービ株式会社 環境保全委員会
〒726-8628 広島県府中市目崎町762

[TEL] 0847-41-1146

[FAX] 0847-43-6111

[e-mail] kankyo@ryobi-group.co.jp



RYOBI リョービ株式会社

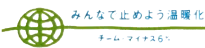
本 社 〒726-8628 広島県府中市目崎町762
Tel. (0847) 41-1111

東京支社 〒114-8518 東京都北区豊島5-2-8
Tel. (03)3927-5541

<http://www.ryobi-group.co.jp/>



ISO 14001 認証取得



本環境報告書の印刷用紙は、古紙配合率100%の再生紙を使用しています。印刷インキには石油系溶剤の使用量を減らした「大豆インキ」を使用することにより、VOC（揮発性有機化合物）の大気排出をセーブし、地球環境の保全に貢献しています。印刷は、アルカリ性現像液やイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な、水なし平版印刷方式を採用した、RYOBI 3404DIで印刷しています。なお、この環境報告書はリョービ書体で制作しています。無断複製・転載等を禁止します。

2007年9月

©RYOBI LIMITED 2007 Printed in Japan